

2019. 3. 31.

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成31年4月2日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

（3月のおはなし会で使った本）

『はるだよおきて』（紙芝居） 千世繭子/脚本 あべ弘士/絵 童心社 2014

『ねこねこやなぎ』 岸田衿子/ぶん 古矢一穂/え 福音館書店 1996

『いいきもち』 ひぐちみちこ/作 こぐま社 2004

『でんしゃののって』（大型絵本） とよたかずひこ/著 アリス館 2006

★「春のスペシャルおはなし会」

○日時：平成31年4月21日（日）11：00～11：40 ○会場：山口県立山口図書館 第2研修室

○内容：エプロンシアター、パネルシアターなどによるおはなし会 ○対象：幼児（3歳児から）

○定員：30名（要申込み・先着順） ○参加費：無料

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-3, 4歳から>

『ひなにんぎょうができるまで』 田村孝介/写真 人形の東玉/監修 ひさかたチャイルド 2019.1 ¥1300

子どもたちの健康と幸せを祈る行事、ひな祭り。美しいひな人形は、どのように作られるのだろうか。人形作りの工房を取材し、人形製作の工程を順を追って、たくさんの写真とわかりやすい言葉で紹介。七段飾りのワイドページ、ひな人形やその道具類についての解説等もあり、大人でも楽しめる。ひな祭りや伝説行事への興味を深めるノンフィクション写真絵本。

<絵本-5, 6歳から>

『ゆげゆげ〜』 さいとうしのぶ/作・絵 教育画劇 2019.1 ¥1100

朝の味噌汁、炊き立てごはん、焼きたてパン屋にお昼の給食、昼食はあつあつラーメン。美味しいところには湯気がある。ほっと一息お父さんのコーヒープレイク、学校帰りのたこ焼き屋、お肉屋さんのコロッケからも美味しそうなお湯気の誘惑。家族団らんで囲むお鍋からもほかほか幸せな湯気。さまざまな場面でたちのぼる湯気をゆげゆげ〜と美味しく楽しく描いた愉快な絵本。

<絵本-小学校低学年から>

『おいしいれいさん』 尾崎玄一郎/作 尾崎由紀奈/作 福音館書店 2019.2 ¥900

ある家の押し入れにすむチョウチンアンコウ風の魚のおいしいれいさん。人が寝静まる夜から朝にかけて好きなことをして遊んでいる。「今日は何をして遊ぶかなあ」と見つけたのが釣りざお。押し入れの中のもの釣りをまわるとなかなか大物はかからない。諦めようとしたその時、釣り針にかかったのは？端午の節句にぴったりの一冊。「こどものとも年中向き」2012年8月号の単行本化。

『きんたろう』 堀切リエ/文 いしいつとむ/絵 子どもの未来社 2019.1 ¥1500

土地争いに敗れ、山に逃れた武士の妻八重桐（やえぎり）。足柄峠で力をついた八重桐は、赤い龍に力を与えられ、やまんぼとなり金太郎を産み育てる。たくましく成長した金太郎は、源頼光の家来坂田金時となり、大江山の鬼を退治する…。有名な金太郎の伝説を、迫力のある絵で表現した昔話絵本。巻末には、神奈川県南足柄市や静岡県小山町など、「金太郎ゆかりの地」の紹介あり。

『おおかみのこがはしてきて』 寮美千子/文 小林敏也/画 ロクリン社 2019.1 ¥1700

おおかみの子が走ってきて氷の上でつんと転んだ。それを見ていた男の子が「ねえどうして転んだの？」父「それはね、氷がえらいからだよ。おおかみよりもずうっとね」子「でも氷はとけちゃうよ。どうして？」次々と疑問を投げかける子に優しく答える父。遙か昔から自然に感謝を捧げてきたアイヌの人々の深い知恵が詰まった絵本。1999年にパロル舎から刊行された本の新装版。

<絵本-小学校中学年から>

『もういいかい』 岡野薫子/作 太田大八/画 復刊ドットコム 2019.1 ¥2300

友だちとかくれんぼをしていたカオルの前に、茶色のぼさぼさ髪の見知らぬ男の子が現れる。言われるがままについていくと小屋へ導かれ、そこで男の子は太鼓をたたき始める。打ったたびに太鼓は少しずつ大きくなりはじめ、ぼさぼさ髪がもっとぼさぼさになったかと思うと男の子の頭には角が…。1976年講談社刊『もういいかい』が新たな編集で復刊。ファンタジー絵本。

<絵本-小学校高学年から>

『こんとん』 夢枕漢/文 松本大洋/絵 偕成社 2019.2 ¥1600

「こんとん」は名前じゃない。名前がないので誰でもない。目も耳も鼻も口もなくいつも空を見上げて笑っている。あるとき南の海の帝と北の海の帝が「こんとん」のところへやってきて、二つの目、耳、鼻の穴、そして口をつくってやった。すると「こんとん」はそのまま倒れて動かなくなったという。中国の神話「渾沌」をもとにしたオリジナル作品。大人にも薦めたい一冊。

<読み物-低学年から>

『やぎこ先生いちねんせい』 ななもりさちこ/文 大島妙子/絵 福音館書店 2019.1 ¥1700

雨が降っても、教室に机で山をつくって、強引に遠足を実施するやぎこ先生。夏休みが楽しみすぎて、つい宿題を出し忘れたやぎこ

先生。雪の日は、運動場で体育と音楽の授業を一緒にやっちゃうやぎこ先生。そんな先生のことが大好きな8人の新入学児と、心配のあまり、ついつい小言を言ってしまう、ちょっと厳しい校長先生の、楽しい1年間のお話が7話。

『どろだんご、さいせ』 中住千春/作 はせがわかこ/絵 フレーベル館 2019.1 ¥1100

小2になる春休みに引っ越したばかり。お別れの日に、お隣に住むずずちゃんからもらった泥団子を、毎日のように触って大切にしていた。ある日、引っ越し先でできた新しい友だちのあみちゃんの不注意で、泥団子にひびが入ってしまう。悲しんでいたその矢先、泥団子の中から、小さな芽が出ていることに気づいたのはるかま…。引っ越しや転校で不安になりがちな春に読みたい1冊。

<読み物—中学年から>

『ルイジンニョ少年』 かどのえいこ/文 福原幸男/絵 ポプラ社 2019.1 ¥1800

ポルトガル語を覚えてくれたルイジンニョ少年。貧富の差はあれども、肌の色で分け隔てをすることのないブラジルの国民気質。ニューヨークのような都会の街並みの中でも、赤い土の匂いや、ジャングルを想像させてくれる青空市場。1959年に自費移民としてブラジルに渡航し、2年間滞在した著者の経験を、みずみずしい筆致で描いた、著者の処女作（1970年発行）の復刻版。

<読み物—高学年から>

『ソロモンの白いキツネ』 ジャッキー・モリス/著 千葉茂樹/訳 あすなろ書房 2018.10 ¥1200

夜になると、波止場に一匹のホッキョクギツネが現れるという噂を聞いた12歳の少年ソロ。いつも孤独を感じていたソロは、そのキツネと自分を重ね合わせ、キツネを探すことに。捕まったキツネを山に戻すために、祖父母の住むアラスカへ向かうソロは、祖父母から、事故で亡くなった母親と、ホッキョクギツネの不思議な縁を知らされる。新たな一歩を踏み出す力をくれる物語。

<読み物—中学生から>

『むこう岸』 安田夏菜/著 講談社 2018.12 ¥1400

超難関男子校に入学したものの授業についていけず、中3で公立中学に転校した和真。父を亡くし、心を病む母と幼い妹を抱え、生活保護を受けて暮らす少女・樹希（いつき）。居場所を求める二人が「カフェ・居場所」で過ごすうちに、貧しさゆえに将来の選択肢を奪われることの不条理に直面する。全く別の境遇に置かれた二人の視点から交互に語られるうちに、希望の光が見えてくる。

『カッコーの歌』 フランシス・ハーディング/著 児玉敦子/訳 東京創元社 2019.1 ¥3300

わたしは池に落ちて意識失っていたらしい。わたしはトリス、11歳。少しずつ記憶が戻ってはきたものの、目覚めた時間こえた「あと7日」という声が時を刻む。わたしを憎み、偽者扱いする妹。破り取られた日記、異常な食欲…わたしに何が起きている?! 1920年のイギリスを舞台に描く、ミステリアスなファンタジー。英国幻想文学大賞ファンタジー長編部門賞受賞作品。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『とりになったきょうりゅうのはなし』改訂版 大島英太郎/さく 福音館書店 2019.2 ¥900

恐竜たちが住んでいた大昔。小さい恐竜の一部は、木の上で生活を始め、やがて翼ができ、空を飛べるようになる。そして、今から6600万年ほど前に、恐竜仲間がほとんど死に絶えても、この小さい恐竜の子孫は、鳥となって生き残ることができる。最新技術で分かった情報により、旧版の一部の絵柄と文章を改め、巻末に、国立科学博物館の博士による書き下ろしの解説文を加えた、改訂版。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『こどものための防災教室 身の守りかたがわかる本』 今泉マユ子/著 理論社 2019.1 ¥3800

地震、台風、土砂災害等に見舞われた時に、子どもができる基本的な身の守り方をイラストでわかりやすく紹介し、避難のタイミングや服装に関する知識、注意点をまとめる。生きる力=防災力を身につけるために、「使ってみよう携帯トイレ」、「アウトドアで防災ランチ」等是非チャレンジしておきたい体験を紹介。著者は、防災士・災害食専門家として活躍する管理栄養士。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『読書がたくましい脳をつくる』 川島隆太/著 くもん出版 2018.11 ¥1400

「勉強をしっかりとしても、睡眠時間が短い人たちは成績が低い」「読書をしている時は、脳が活発に活動している」「スマホで言葉の意味を調べる時は、辞書で調べる時より脳が働いていない」等、脳研究からわかった成績がよくなる科学的な理由を、脳の画像やグラフを多用しながらわかりやすく解説し、睡眠や読書の大切さを明らかにする。「くもんジュニアサイエンス」シリーズ。

『はさんで楽しいきほんのサンドイッチ』 寺西恵里子/作 汐文社 2019.2 ¥2200

基本のハムきゅうりサンドから、ジャムを塗って巻いたロールサンド、焼いたパンで作るクラブハウスサンドなど、いろいろなサンドイッチの作り方を写真で紹介。きれいな切り口を見せて盛り付けたり、かわいくラッピングしたりする方法も掲載。家庭科の調理実習や、謝恩会でもてなし料理で活用できる。「はじめてのおにぎり&サンドイッチ」シリーズ全4巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『中学生のためのスイーツの教科書 13歳からのパティシエ修業』 おかやま山陽高校製菓科/編 吉備人出版 2018.12 ¥900

高校製菓科が、パティシエに興味を持っている人のために、自分たちが学んでいるお菓子作りの基本を専門用語も使いながら丁寧に教える。15種類の人気スイーツづくりを通して、基本的な知識や技術がマスターでき、9つのコラムでは、醸成や乳化といった製菓の化学やパティスリーの1日なども学べる。全頁カラーで、大切なポイントには動画が見られるQRコードが付けられている。

<研究書>

『本・子ども・絵本』 中川李枝子/著 文藝春秋 2018.12 ¥680

『いやいやえん』『ぐりとぐら』などの著者が、17年間の保育士生活や、自分の家庭での情操教育のエピソードをもとに、子どもの素晴らしさや子どもたちの人生の入口となる絵本や読書について熱く語ったエッセー集。子どもへの向き合い方に悩む保護者へのアドバイスも多数あり。1982年、2013年出版の本に撮り下ろしの写真や山脇百合子のイラストを追加して文庫化。

『どの絵本読んだらいいですか? 元「童話屋」読書相談員・向井淳子講演録』 向井淳子/述 向井ゆか/編 かもがわ出版 2019.1 ¥1200

書店「童話屋」で読書相談員として長年働き、その後、絵本アドバイザーとして数多くの講演会や勉強会の講師を務めた向井淳子の講演記録。温かみのある気さくな語り口で、読書ボランティアや保護者へ向けて、子どもの成長に寄り添った絵本選びや生きる力を育む読書について語る。2004年の講演時に展示した絵本等100冊のリスト、東山絵本勉強会で配られた読みものリスト付き。